

第 83 回 原子力関連学協会規格類協議会 議事録（案）

1. 日 時：2026年6月9日（火）13時30分～15時00分

2. 場 所：日本電気協会 C会議室（Web併用会議）

3. 出席者：（敬称略，順不同）

出席委員：松永議長（日本機械学会 発電設備規格委員会 委員長），山本議長（日本原子力学会 標準委員会 委員長），阿部（日本電気協会 原子力規格委員会 委員長），楠（日本機械学会 発電設備規格委員会 幹事），高屋（日本機械学会 発電用設備規格委員会 原子力専門委員会 委員長），西山（日本原子力学会 標準委員会 副委員長），竹下（日本原子力学会 標準委員会 幹事），関村（東京大学名誉教授），宮野（日本原子力学会 標準委員会 フェロー委員），吉田（日本電気協会 原子力規格委員会 副委員長） 斉藤（日本電気協会 原子力規格委員会 幹事）

常時参加者：岩浅（資源エネルギー庁），塚部（原子力規制庁），田中（原子力規制庁），折田（電気事業連合会），北山（日本建築学会 原子力建築運営委員会 主査），松岡（日本機械学会 発電用設備規格委員会 事務局），井上（日本機械学会 発電用設備規格委員会 事務局），大沼（日本原子力学会 事務局），橘（日本電気協会），高柳（日本電気協会），中山（日本電気協会），浅見（日本電気協会）

オブザーバ：稲本（一般社団法人 日本溶接協会 事業部），増川（一般社団法人 火力原子力発電技術協会 専務理事），永田（日本電機工業会 原子力機器標準化専門委員会 委員長），新倉（日本電機工業会），藤中（日本機械学会 幹事補佐），山中（日本原子力学会），高山（日本電気協会），山田（日本電気協会），岡田（電事連），藤崎（電事連）

日本電気協会 原子力規格委員会 事務局：景浦，美濃，梅津，上野，川口，山崎（計35名）

4. 配付資料：別紙参照

5. 議 事

原子力関連学協会規格類協議会 事務局から，本委員会にて私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないこと及び録音することを確認した。その後事務局より本日の会議の議長は山本議長となるとの紹介があった。

5.1 出席者確認，代理出席者，常時参加者及びオブザーバの紹介

原子力関連学協会規格類協議会 事務局より，参考資料・1に基づき，委員変更の紹介があった。出席委員については12人中11名出席との紹介の後，常時参加者，オブザーバの紹介があった。新委員及びオブザーバの挨拶があり，オブザーバについては原子力関連学協会規格類協議会運営要綱第5条（協議会の開催）第3項に基づき議長の承認を得た。

5.2 前回議事録確認

原子力関連学協会規格類協議会 事務局より、資料 No.83-1 に基づき、前回議事録(案)について紹介があり、特にコメントは無く、正式議事録にすることについて、運営要綱第 7 条（決議）に基づき決議の結果、承認された。

5.3 審議事項

(1) 原子力関連学協会規格類協議会の課題案について

松永議長より、原子力関連学協会規格類協議会の課題について新規案件の有無を確認され、新規案件の提案は無かった。

ステートメント改定についての議論が行われた。

前回（82 回）、で提示された原子力学会委員と電気協会委員の意見についての修正、機械学会よりステークホルダーの定義について意見があり、修正した改定案について、山本議長から資料 No.83-2-1,2 を用いて説明された。

その後、各委員に対し意見を求めたが、日本機械学会、日本電気協会から意見は無いとの回答があった。

松永議長より、原子力関連学協会規格類協議会 運営要綱 第 7 条（決定）に基づき、ステートメント改定案に対し、挙手による合意の確認がなされ、Web の挙手機能及び会場参加委員の挙手により、承認された。

山本議長より、「ステートメントを出すことよりも、これに基づいて活動していくことが重要」との言及があった。

（主なご意見・コメント）

- ・ 日本機械学会だが、草案をご提示いただいたところから内部でも確認し、最後にステークホルダーの定義についての意見も適切に反映頂いていて、これ以上のコメントはないと考えている。
 - ・ 日本電気協会だが、電気協会も同様でこの修正案で良いと考えている。原子力学会も山本議長の説明で良いと考えてよいか。
- はい、その通りである。
- ・ このステートメントで重要なことは、これを出すことではなく、これに基づく活動であることである、引き続きお願いします。

5.4 報告事項

(1) 電気事業連合会

- ・ 技術評価を希望する学協会規格（報告）

電気事業連合会 折田副部長より、資料No. 83-3-シリーズに基づき、技術評価を希望する学協会規格について報告があった。

（報告内容）

- ・ NRAの公開会合「新規性要件に関する事業者意見聴取（技術評価の優先順位）」の報告
- ・ 2026年度に技術評価を希望する規格はJEAC4203 PCV漏洩率試験
- ・ 2027年度以降についてはスライド4, 5に記載している規格を希望。
- ・ NRAからの要望として全般的に技術評価前に技術根拠の整備状況を確認した上で臨むことを願います。

- ・ 日本原子力学会へは査読付き論文等による技術根拠の公値化、前回技術評価でのNRA要望事項の反映状況説明を要望
- ・ 日本機械学会へはバスケット用アルミ合金（A3S04.5）に関する技術根拠確認と規格策定、過去の技術根拠不足事例を踏まえた準備状況・対応方針の説明、PWR炉心そう亀裂評価法における検査方法（機械学会の維持規格）との関係の整理を要望
- ・ 日本電気協会へはJEAC4208過電流探傷について機器の変更により改定不要な規格への変更と後継機適用への技術根拠の整備。
- ・ 今後、ATENAから技術評価の希望を出す学協会へは会合への参加をお願いすることになる。
- ・ 日本機械学会のCCV規格（2022版）について技術評価の可能性を示唆する発言があった旨情報共有する。

（主なご意見・コメント）

- ・ 日本機械学会だが、先ほど電気協会への要望にあった炉心槽の亀裂評価は、機械学会の維持規格のことか。
→ その通りである。訂正させていただく。
- ・ 日本原子力学会だが、技術評価のスケジュールであるが、これは事業者側の希望であり、決定されたものではないと考えてよいか。
→ 原子力規制庁だが、現在実施中の技術評価の次の希望を受けただけであり、その後は、優先順位の参考に聞いている。
- ・ 日本機械学会だが、先ほど要望にあった過去に技術根拠の不足の具体例は何か。
→ 議論していたのが、バスケット用のアルミ材料の規定であった。
→ 過去に一度取り下げたことがあり、廃止したことがあったので、その時のことと理解した。
- ・ 日本電気協会だが、原子力規制庁の要望を電事連から聞くことには違和感があり、直接この場で言うことをお願いしたい。
→ 電事連としても同感であり、原子力規制庁から要望として示されるべきである。
→ 原子力規制庁だが、今回特段新しいことを要望したつもりはなく、出席している分科会などでも既に意見している内容である。
→ 日本電気協会だが、「個別の分科会などで意見してもその場限りになり、規格利用者の重要な意見として、この場で発言いただく方が水平展開にもつながる。議事録にも残るこの会議で意見をお願いしたい。」
→ 原子力規制庁だが、意見の主旨は了解した。

（2）各学協会からの報告

1) 日本機械学会

a 発電用設備規格委員会における事例紹介(報告)

日本機械学会事務局より、資料 No.83-3-2-1-1 に基づき、規格作成段階での AI 活用事例の報告があった。

（報告内容）

- ・ 目的：委員が技術判断・審議に注力できるよう、AIを活用して誤記・表記揺れ・差分検証を網羅的に抽出し、校正・編集負荷を軽減する。最終品質は人間が担保。

- ・ ChatGPTによる推奨表記集抽出ツール（GPTs活用）：ファイルを入力すると、ページ・段落ごとに原文・修正候補・理由・根拠を出力しCSVで編集可能。ただし検出件数にばらつきが生じる課題あり。
- ・ HTMLファイルで動作する推奨表記集校正支援ツール（東京都市大学・大鳥先生協力）：ソフトインストール不要，ドラッグ&ドロップで校正チェック実行。ブラウザ内完結でファイルが外部送信されないセキュアな設計。推奨表記集・JIS Z8301規定表現・句読点統一等に対応。アクセプト/レジェクト/保留の判断をユーザーが行い，Excel/CSV出力可能。
- ・ 現状の効果：誤記・表記ルール違反の網羅的抽出，工数削減，規格間・作成者間の編集品質均平化。
- ・ 今後の計画：
 - ・ フェーズ1:誤記・表記揺れの自動検知（推奨表記集全体への拡張・改善要望整理中）。
 - ・ フェーズ2：改訂支援（改訂原因管理・進捗管理・編集支援）。
 - ・ フェーズ3：整合性確保（規格内・複数規格間の矛盾検知）。
 - ・ 他学協会（電気協会・原子力学会）への共有・活用も視野に入れて進める方針。

（主なご意見・コメント）

- ・ 日本機械学会だが，過去に規格の誤字や誤記などが問題になったことがあり，AIの技術を使って改善する活動を進めているところ。他の学協会にも活用いただけるのであれば，共有しながら進めていく。状況が進展したら紹介したい。

2) 日本原子力学会

a 技術評価への対応(報告)

日本原子力学会 山本委員長より，資料 No. 83-3-2-2-1 に基づき，技術評価への対応について報告があった。

（報告内容）

- ・ 対象：2021年初頭から開始したL1放射能評価標準
 - ・ 明らかになった課題
 - ① 性能規定を含む標準であることについて，規制庁と学会間で認識が共有されていなかった。
 - ② 技術評価前に評価対象の範囲を明確にしていなかった。
 - ③ 標準の本文と付録の関係が分かりにくかった。
 - ④ 初版から技術評価まで10年以上経過し，根拠データ整理に時間を要した。
 - ⑤ 質問への回答が不十分だった。
 - ・ 対応方針：
 - ① 技術評価前に評価対象範囲・審査効率化の範囲を事前合意することが必要。
 - ② 標準に記載されている事項の説明責任は標準委員会，記載のない事項（仕様規定相当の記載がない場合等）の説明責任は事業者と明確化。
 - ③ 規格策定段階から規制庁に参加いただく形を継続。
 - ④ 技術の継承・体制整備，コメントへの的確な対応。
 - ・ L1放射能評価標準は技術評価書のコメントを反映して現在改訂中。改訂版が次回

技術評価対象となる見込み。

- ・ エンドースだけが標準活用の形ではなく，自主的安全性向上・日常運営・検査制度等での活用も重要。

(主なご意見・コメント)

- ・ 原子力規制庁だが，この通りであるということをコメントさせていただく
- ・ 日本機械学会だが，非常に良く整理いただき感謝する。我々も今後の技術評価に当たる場合には参考にさせて頂きたいと考える。

3) 日本電気協

a 技術評価対応状況について(報告)

日本電気協会事務局より，資料 No. 83-3-2-3-1 に基づき，技術評価対応状況について報告があった。

(主なご意見・コメント)

- ・ 特になし。

b 第10回原子力規格委員会シンポジウムについて(報告)

日本電気協会事務局より，資料 No. 83-3-2-3-2 に基づき，2025年度 JEAC4111 専門コース講習会の開催について報告があった。

(報告内容)

- ・ テーマ：「原子力業界におけるAI活用の現状と未来展望」
- ・ オンライン開催 2025年10月26日(月) 13:30～16:30
- ・ 第1部は講演，第2部はパネルディスカッション

(主なご意見・コメント)

特になし。

c 2026年度 JEAC4111 実務コース講習会の実施について(報告)

日本電気協会事務局より，資料 No. 83-3-2-3-3 に基づき，2026年度 JEAC4111 実務コース講習会の開催について報告があった。

(報告内容)

- ・ 9月1日～10月31日までの2か月間，オンデマンド配信と10月7日にライブ配信を行う。

(主なご意見・コメント)

- ・ 特になし。

5.5 その他

(1) 第83回原子力関連学協会規格類協議会に向けた幹事会について

原子力関連学協会規格類協議会事務局より，資料 No.83-4-1 に基づき，規格類協議会幹事会議事概要について紹介があった。

ステートメント改定案のコメント対応リスト修正案について議論がおこなわれた。

(主なご意見・コメント)

- ・ 特になし

検査制度に関する意見交換会合 第 19 回 2026 年 3 月 30 日に実施

規格に直接関係する事項はなし

(2) 次回原子力関連学協会規格類協議会開催について

次回規格類協議会については、幹事会を 2026 年 8 月 4 日(火)13 時 30 分から 15 時 30 分、本会議を 2026 年 9 月 7 日(月) 13 時 30 分から 15 時 30 分での開催を予定しているので、予定の確保をお願いします。

以上

第 83 回原子力関連学協会規格類協議会配付資料

83-0	第 83 回原子力関連学協会規格類協議会 議事次第
83-1	第 82 回原子力関連学協会規格類協議会 議事録（案）
83-2-1	コメント対応リスト_20260520
83-2-2	ステートメント_202600520_履歴あり
83-2-3	ステートメント_20260520_履歴なし
83-2 参考	原子力安全の向上に向けた学協会活動の強化(20183308)
83-3-1	（ATENA 資料：20260602 時点）2026 年度 技術評価を提案する学協会規格について
83-3-1 参考	技術評価戦略ロードマップ（20260609）
83-3-2-1-1	規格類協議会_発電用設備規格委員会における事例紹介_20260609v0
83-3-2-2-1	技術評価への対応.
83-3-2-2-2	（別紙）標準委員会技術評価への対応細則
83-3-2-3-1	JEAC4601 技術評価実施状況について
83-3-2-3-2	第 10 回原子力規格委員会シンポジウムプログラム案 rev.2
83-3-2-3-3	2026 年度_実務コース講習会の開催案内(案)R3
83-4-1	第 83 回原子力関連学協会規格類協議会 幹事会 議事概要（2026 年 5 月 20 日）
参考資料-1	原子力関連学協会規格類協議会 名簿
参考資料-2	原子力関連学協会規格類協議会 運営要綱
参考資料-3	日本機械学会 発電用設備規格委員会 制定規格
参考資料-4	日本原子力学会 標準委員会 標準の策定と技術評価に関する状況
参考資料-5	日本電気協会 原子力規格委員会 策定規格
参考資料-6	民間規格の技術評価の実施に係る計画（令和 6、7 年度）（2024 年 7 月 10 日 第 19 回原子力規制委員会資料 2）